

だいきく通信 第四十八号「冬の手」

いあつち

去る九月三十日、新型コロナウイルス感染拡大によって出されていた緊急事態宣言が解除されました。しかしながら、これから冬に向かう中で第六波の到来が懸念されています。「密」を避ける、屋内では換気を徹底させるなど、引き続き注意が必要だと思われます。気を抜かず、地道な対策を続けていきたいものです。

当神社でも引き続きできる限りの感染対策をしつつ、みなさまのお参りをお待ちしております。

社報「だいきく通信」第四十八号をお届けいたします。年四回の発行ですので、第一号以来ちょうど十二支が一巡りしたことになります。今回は、神社に関する豆知識をお伝えする「お宮あれこれ」で、来年の干支を取り上げています。オリジン・キャラクターたちが活躍する連載まんがもごさいます。お楽しみいただければ幸いです。

大國神社 宮司 大島資生



令和四年新年のご祈祷受付時間

一月一日(土)	午前零時～午前一時
一月二日(日)・三日(月)	午前六時～午後五時
一月四日(火)～七日(金)	午前九時～午後五時
(初子・初甲子) 一月一日(火)	午前九時～正午
	午前五時～正午

大國神社の今

前々号・前号でお伝えしております通り、当神社境内には神社の由来を記した石碑を再制作する作業を進めております。十月初めに碑に刻まれている文字をかたどりしました。年内には完成の見込みです。

ご参拝の際にご不便をおかけすることがあるかもしれません。安全第一に作業を進めるようにいたします。どうかご了承くださいませ。



お宮あれこれ〜トラの話〜

毎年恒例となりました、来年の干支にまつわるお話です。来年は寅年なので、それにちなんでトラのお話をいたします。

トラはネコ科で最大の猛獣です。氷河期にはユーラシア大陸のほぼ全域にみられましたが、現在の生息域はアジアに限られます。アムール、中国東北部、朝鮮半島から、西はカスピ海の南までの諸地域に分布します。

日本には生息していませんが、古くから文献を通じて伝わり、日本人にとってはなじみの深い動物となっています。トラの登場する表現で有名なものとして、中国から伝わった「前門の虎、後門の狼（一つのわざわいをのがれても、さらにまた他のわざわいにあう）」「虎の威を借る狐」といったものがあります。

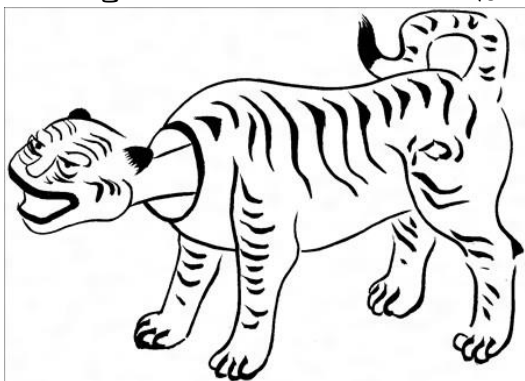
もう一つ、よく使われる「虎の巻」については、こんな話があります。京都の鞍馬寺には、狛犬のように配したトラの石像が一对あります。なぜトラなのでしょう。縁起によれば、鞍馬山を開創した鑑禎が初めて毘沙門天を拝したのが、寅の月、寅の日、寅の刻だったと伝えられています。また、鞍馬寺には「鬼一法眼兵法虎之巻」というものがあります。これはもともとは中国古代の兵法書「六韜（りくとう）」の虎巻にさかのぼります。現代でも、秘伝や物事の奥義を記したもののことを「虎の巻」といいますが、その源です。「義経記」に次のような話が記されています。一条堀河の陰陽師鬼一法眼（きいちほうげん）が所持していた兵法の秘伝を、源義経が法眼の娘の手引きにより盗み出しました。これは中国から伝えられて、坂上田村麻呂、藤原利仁、平将門らが読み伝えたものであるとされ

ています。この「虎の巻」の伝承は、源義経およびトラに関係が深い鞍馬の陰陽師が伝えたものと考えられます。鞍馬寺では、戦国時代には、「虎巻之法」を修めたことが知られ、「虎之巻」は毘沙門天の絵像とともに各地に配布されていたといわれます。

次に、古典作品に登場するトラのお話を一つご紹介します。

「紫式部日記」には、紫式部が仕えた中宮彰子が出産した皇子の〈御湯殿の儀式〉（産湯）の際、「虎のかしら宮の内侍とりて御さきにまゐる」と記されています。ここで「虎のかしら」というのは、本物の虎の頭ではなく、虎の頭の形を模したものと解釈されています。その影を映した産湯を使うと、病気を払い、赤ん坊が無病で成長するとされてきました。これは、中国隋代の「産経」の「初湯の際、虎の頭を湯の中に漬して沐浴すると、児を無病にする」とあることにちなんだ儀式です。ちなみに、のちの「張り子の虎」は、こういった習慣と関係すると思われ（イラストは『日本国語大辞典』より）。ただ、紫式部は「夜さりの御湯殿とても、さまばかりしきりてまゐる（夕時の御湯殿の儀式といっても、形だけを繰り返して奉仕する）」と書いており、当時すでに形式的なものになっていたと思われる。

トラは画題としてもよく取り上げられています。有名なのは、「竜虎図」で、竜と虎を対比的に描くものです。古代中国の四神のう



ち、東に配されるのが「青竜」、西に配されるのが「白虎」です。季節でいえば前者が春、後者が秋にあたります。「龍虎相搏（う）つ」とは、「いずれおとらない英雄・豪傑・強豪などが勝負する」という意味です。（写真は狩野常信「龍虎図」東京国立博物館イメーリアーカイブより）



また、調和して絵になるものの組み合わせを言う言葉に、「梅に鶯、紅葉に鹿、牡丹唐獅子、竹に虎」というものがあります。「竹に虎」をあしらった作品がよくみられます。よく知られているのが、尾形光琳の「竹虎図」です。この作品の所蔵館である京都国立博物館の公式キャラクター「トラりん」のモチーフとなつて、一躍人気になりました。

（写真出典 <https://artnews.blog.ss->

blog.jp/upload/detail/m_E7ABB9E8998FE59BB3E38080FE5B0BEE5BDA2E58589E790B3E7AD86FBC88E4BAACE983BDE59BBDE7AB8BE58D9AE789A9E9A4A8EFBC89.jpg.html）



来年の「トラ」にはさまざま
な災厄をぜひとも追い払って
もらいたいと思います。

参考文献 『日本国語大辞典』（小学館）、『デジタル大辞泉』（小学館）、『日本大百科全書』（小学館）、『世界大百科事典』（平凡社）、（以上 ジャパンナレッジ利用）、『神道大事典』（弘文堂）

祭礼・祈禱などのご案内

○次回甲子祭

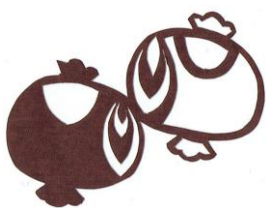
令和四年一月十一日（火） 午前五時～正午

○開運千人講祈禱祭 毎月一日 午前六時～正午まで

○諸祈祷受付 商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮参りなど、随時祈祷を行なっております。

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは次頁の電話番号もしくはメールにてお願いいたします。

不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージのあとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話してください。のちほどこちらからご連絡いたします。



(連載まんが)

大吉うさぎ ～漢字クイズ その3～ くま こまち 作

〈お問い合わせ・お申し込み〉

電話

携帯

eメール

〇三―三九一八―七九三〇
〇八〇―一九八七―八七二六

daikokujinja@gmail.com

次号発行予定

「だいこく通信第四十八号」、いかがでしたか。次号「春の号」は、令和四年三月十二日の甲子祭に発行予定です。

「だいこく通信」第四十八号 令和三年十一月十二日発行

編集・発行 大國神社社務所

〒一七〇―〇〇〇三 東京都豊島区駒込三―二―十一

<http://www.daikokujinja.org>

